

各種媒体でお伝えしています

いずれも「平野 剛」の検索で表示されます。
長崎や市政に関する情報を配信しておりますので
是非ご参照ください。

LINE 公式アカウント 友達登録方法

- QRコードをカメラで読み取る
- 「追加」を押して友達登録完了！

1 QRコードをカメラで読み取る

2 「追加」を押して友達登録完了！

平野 剛 公式ホームページ

<http://hirano-tsuyoshi.net>

平野 剛 facebook

<https://www.facebook.com/tsuyoshi.hirano.92>

今後とも長崎市の皆様のお役に立てるように日々活動してまいります。

お住まいの地域や長崎市行政についてのご質問やご相談などございましたら、お気軽にお問い合わせください。

〒850-8685 長崎市魚の町4-1

長崎市議会控室

TEL.095-829-1403

市 政 報 告

Vol.17

長 崎 市 議 会 議 員
ひ ら の
平 野 剛

～令和7年 3月議会を終えて～

前略

去る3月議会において、会派代表質問に登壇致しました。

下記項目にて、市政に対し、提言＆要望を致しましたので、抜粋して報告します。
ご一読頂ければ幸いです。

草々

LINE 公式アカウント はじめました！

「お友だち登録」を是非お願いします。

市政に関する事を定期的に発信しています。

登録方法は裏表紙をご覧ください。

質問項目

1. 人口減少対策について

① シニア世代に選ばれる街

2. 組織の改編について

3. 長崎スタジアムシティへのロープウェイ延伸について

4. カーボンニュートラル推進による経済活性化策について

5. 長崎みなとメディカルセンターの経営状況について

6. 保育士のサポート事業について

7. 小中学校教室への加湿器の設置について

皆さんの声でこんな仕事もしています！

次ページより、質問の趣旨と長崎市の回答、及び成果を報告致します。※一般質問の様子を、YouTubeでご覧になれます。

長崎市議会 一般質問 令和7年 平野剛



からもご覧になれます。
「Yahoo!」や「Google」から検索下さい。

1 人口減少対策について～シニア世代に選ばれる街

人口流出が、全国の自治体でもトップクラスの長崎市。

特に若者の都会への流出は激しく、様々手を打ってもなかなか結果が出ない現状。

1/31に総務省が発表した「**2024年の人口移動報告**」



コロナ禍で一時は緩和された「**東京一極集中**」が再び進行
(九州では福岡県に多くの若者が集中)

ここで、



視点を变えて、「**定年退職者・役職定年者が集まってくる街**」
について提言しました。

長崎の魅力の一つに、充実した医療体制があります。

これは人口10万人当たり
医師の数が全国平均の約1.8倍
歯科医師が約1.7倍、
薬剤師が約1.2倍、
看護師が約1.6倍



よって、
病院、診療所が多く、『**医療の街**』として打ち出せる環境。

そこで、



長崎市に提言

『**第2の人生のスタートは、安心して医療と介護を受けれる長崎で**』
というのは、都会に勝てる長崎の魅力の1つ。

また、多くの雇用を現在産んでいる医療・介護の経済を、
人口減少によって縮小させる事なく、守る一面も。

西方浄土。西に浄土あり。

医療と介護を武器に、西の果て長崎を最後の安住の地として、
打ち出していく考えはないか？

提言しました。



長崎市の回答

人口構造における各世代のバランスを保つ必要があることから、
若い世代を増やすことが重要。
シニア世代やその上の高齢者世代が増加した場合、医療等の人材不足の課題、
社会保障費などの財政に与えるインパクトを慎重に見極める必要がある。

との回答でした。



《感想》

若い世代を増やしたいのは理解するが、都会の魅力に長崎が勝てるのか？
得手不得手。強み弱み。
を理解し、長崎らしい戦略を取るべきかと思うのですが。
高齢者が増えると迷惑するかのよう内容の答弁には、
今の高齢者に失礼では？との指摘もした次第です。

2 組織の改編について

様々な課題を、効率的・効果的に課題解決を図っていく上で、組織の体制について提案致しました。

まず1点目、

公会堂に代わる新たな文化施設の建設はどうしていくのか？

という課題は大きな課題としてあります。

その課題の中身高騰した建設費をどうすれば解決するのか？

お金の話ばかり。

ハコモノ建設の話ではなく長崎の文化をどう創っていくのか？

というような議論は聞こえてこない。

現在、

この問題を受け持つ所管が『**市民生活部**』
＝文化を醸成し育てていくという事に馴染んでいるのか疑問？？

そこで、

文化観光部を文化と観光に分け、**《観光部》**として観光に特化し、

新しく《文化部》を創設した所に、

部活動の地域移行問題や、松山地区のスポーツ施設再整備の問題、

スタジアムシティとのスポーツの連携、スポーツ振興も加え、

《スポーツ・文化部》の創設

を提案致しました。

2点目に、

『ペンギン水族館』は、何故水産農林部が所管しているのか？

『お魚がいるから。』
との理由らしいですが、

そのお魚じゃないだろうと思います。

あぐりの丘は『あぐりドーム』を作る際、
子ども達が遊びに来るからとの理由で、
水産農林部からこども部へと所管が変わりました

子どもが来るならこども部なのか？

これもまた、

あぐりの丘の維持管理を含め、子供部の所管になじむのか疑問？？

また、
稲佐山公園と、諏訪神社横の長崎公園には、
動物達がいて、たくさん子供達が見にきています。

動物達のお世話をする所管が何故土木部なのか？

そこで、



ペンギン水族館、あぐりの丘、稲佐山公園と長崎公園の動物達をはじめ、
多くの若者から『**長崎は遊ぶ所がない。**』

との声を解決すべく、
スポーツ・文化部の中に、『**レジャー課**』を新設し、

スポーツと文化とレジャーの充実を、図っていかれたらと

提案致しました。

次ページへ

そして、

長崎市内にはたくさんの公園があります。

公園の維持管理という観点で、地域整備課が所管していますが、この『レジャー課』が所管すれば、維持管理という観点から、

どんな公園だったらもっと楽しめる公園になるだろう？

という視点にならないか？

長崎市中の公園が、そういう視点に則った公園になっていけば、**どんなに楽しい街になるか？** 想像するだけでワクワクします。

公園の所管に関しても、『レジャー課』が所管する。

合わせて提案致しました。



2025年1月に視察に行った、品川区大井坂下公園。

<特徴>

- ・子供達のアイデアを取り入れ生まれ変わりました。
- ・インクルーシブな公園にもなっています。

※豆知識＝インクルーシブ公園とは、障がいがあっても楽しめる公園

3 長崎スタジアムシティへのロープウェイの延伸について

長崎市は長崎スタジアムシティ事業者より、ロープウェイをスタジアムシティまで延伸する事業提案を受け、その可能性調査を実施しています。

調査の結果、

《主な課題》

- ・現在の鉄塔の3倍の高さにもなる鉄塔の建設費
- ・その土地の確保
- ・大幅に利用が増える事から山頂の展望台のキャパシティ

そこで、

長崎市へ質問

建設費は、基本設計をしないと算出は難しいとされていましたが、概算でどの程度の額になるものなのか？

お尋ねしました。

長崎市の回答

- ①現在の31人乗りから101人乗りへ大型化し延伸
→既存鉄塔の3倍(75メートル)の**大型鉄塔が必要**
＝**令和2年度試算で約70億円**
→**現在はさらに高額に**
- ②鉄塔建設の土地購入費
＝地権者と交渉しておらず不明確

👉 次ページへ

長崎市へ要望

夜景観光は宿泊と飲食を伴うので、経済波及効果が大きい。
建設費用に関しては、

- ・ロープウェイ収入
- ・駐車場収入
- ・飲食収入
- ・お土産購入

の収入を充てつつ、

スタジアムシティ事業者と協議を重ね、
官民連携型の事業スタイルにて資金を捻出し、実現に向けて動いて欲しい。

と要望致しました。

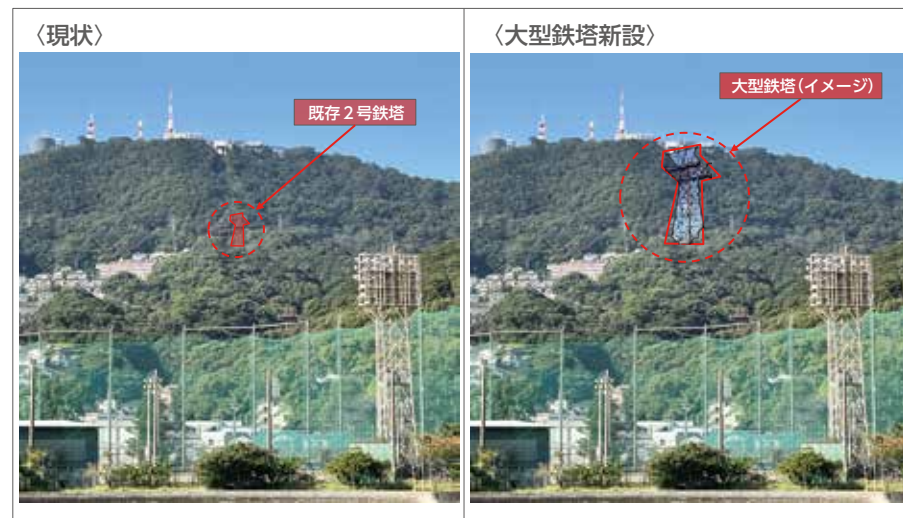
引き続き取り組みます。

ロープウェイ延伸計画資料



既存路線を長崎スタジアムシティ（候補地B）まで延伸する案を最適と結論

【参考】大型鉄塔建設イメージ図（浦上川のスタジアムシティ側から見た図）



4 カーボンニュートラル推進による経済活性化策について

昨年7月29日に開催された『第27回長崎サミット』



長崎港にて、

温室効果ガス排出量実質ゼロを産学官で連携し、積極的に推進することで合意。

《例えば》

① 船舶への陸からの電気供給。

客船は、停泊中でも船内の電気を賄う為、
重油で発電機を動かし、大量にCO2を排出しているそうです。

これを規制する為欧米では、陸上からの給電の義務化が拡がり、
既に多数の港で稼働している中、

国内では、横浜港と神戸港で始まったばかりで、
長崎港は、多くの客船が押し寄せる観光の港として、
モデルケースになる好機とされております。

② 三菱重工業

主要事業の火力発電設備が、脱炭素化の逆風下で縮小していく中、
それを補う収益源に育てようと、
長崎市内の研究所と、二つの工場をまとめて
『長崎カーボンニュートラルパーク』
と位置付け、様々な研究・開発を始めており、
長崎の地場の経済にも貢献できるものと期待もされています。

③ 国から脱炭素先行地域に選定された長崎

「歴史文化」と「夜景観光」と「脱炭素化」が融合した
「長崎市版 サステナブル ツーリズムの世界発信」を目指す取り組み。

など、特に具体的に取り組む《5つのプロジェクト》が決議されました。

そこで、

長崎市に質問

この取り組みに市としてどのように取り組んでいくつもりか？
また、これに取り組むことでどういうメリットが考えられるか？
そして、現在の進捗状況について

お尋ね致しました。

長崎市の回答

長崎港の競争力強化や、造船・造機製造業で培ってきた技術を活かした
**経済活性化につながるチャンスと捉えており、
産学官連携して積極的に対応していきたい。**

との回答を得ました。

長崎市へ提言

- ①民間と行政の役割分担をはっきりし、**推進体制の形**を
しっかり構築する必要性
- ②それに長崎市が旗振り役として積極的に図るべき。

と提言し、

さらに、

長崎は港の街であり、三菱重工業というスーパー企業がある街

三菱重工業さんも、
「長崎カーボンニュートラルパーク」と位置付け取られようとしている中、
関連する地場企業を含め、

ここに、「**新たな産業の種**」があり経済活性化のチャンス！

しかも、

カーボンニュートラルポートを提唱しているのは鈴木市長出身の国交省

『**まさに市長の国とのパイプ活かせる絶好のチャンス**』

としてしっかり取り組んで頂くよう強く要望致しました。

長崎ベイエリアにおけるカーボンニュートラル イメージ



5 長崎みなとメディカルセンターの経営状況について

昨年、看護師不足を主な理由に約17億円の赤字を計上



今後、
看護師を充足させ、入院患者を増やし病床稼働率を高める。

との収支改善の計画を1年前示されました。

そこで、



長崎市へ質問

今年度の収支予測は計画に対しどのような状況か？

またかねてより、
《持論》として、

- ①病床数を削減することで、それに伴う職員数を減らしスリム化
- ②コストカットをする中で、収支の改善
- ③税金の支援を受ける公的病院として、
どのような医療を提供する病院であるべきかの検討

を求めてきました。

この件に関し見直すお考えはないか？

お尋ね致しました。

長崎市の回答

令和6年度決算見込みは12億円の赤字予想。

今年度＜医業経営コンサルタント＞を導入したところ、

- ①看護師不足の影響で病床稼働率が低下していると認識していたところ、
看護師は他の病院と比べ充足しており、業務の効率化に改善の余地がある事が判明。
- ②手術需要は令和2年度に既にピークアウトしている事が判明。



よって、
《構造改革に着手》

- ①病床数の削減
- ②職員の適正配置数の見直し
- ③診療機能の範囲の見直し

要望致しました。

によって**病院規模のダウンサイジングを図る。**

との回答を得ました。



《ここがポイント》

規模をダウンサイジングすることでコストカット出来るのか

＜コストの中身＞

年間約150億円の費用

- ①人件費＝約78億円
- ②材料費＝約37億円
- ③経費＝約20億円
- ④減価償却費＝約10億円

の4つが大きく占めます。



<②の材料費の部分> について

「経済性を重視した材料の購入を徹底する。」

とのことですが、これまでも徹底していたはず。

やってきた取り組み以上にどれだけ費用削減できる部分があるのか疑問。

<③の経費の部分> について

平成23年から令和12年までの20年間。

大成建設さんを頭とするSPCと**PFI 契約**を結んでいます。

例えば、

ベッドを削減して部屋が空いたとしても、清掃費は一定額のまま。

本来、変動費であるはずのコストが、

PFI 契約により一定額が今後も契約されており、コスト削減は難しいのではないか？。

<④の減価償却費の部分> について

建物の償却費は今後も一定額が続くと思われ、コストの下がりようがないのではないか？



よって、最も費用を占めている人件費を削減出来るかがポイント。

しかし1年前、

『看護師を充足していくので、職員数の増加と給与の見直しで、
現在76億円人件費が、令和9年度に82億円になる見込みです。』

と議会に説明しており、

逆に増えていく計画になっていました。

長崎市に質問

この人件費、今後果たしてコストダウンが可能なのか？



お尋ねしました。

長崎市の回答

病床数を削減し、職員の配置数の見直しにより、人件費は抑制可能
と考えております。

と答弁されました。

感想

抑制可能だとしても、一定の時間は掛かるでしょうから、
時間的に残された体力**(保有現金) が持つのか**心配です。



次ページへ

そこで、

長崎市に質問

キャッシュフローが心配なので、**現在の資金残高**についてと、
運営していく上で現金残高のデッドラインについて

お尋ねしました。

長崎市の回答

現金残高 = 令和6年12月末で **33億円**
デッドライン = 営業費用の2か月分で **27億円必要**であるならば、
33億円が27億円になるまで、ほとんど猶予期間はない。

という事になります。

長崎市へ質問

今回の方向転換は評価をするところ。

せっかく方向転換決めたなら、
足元赤字は続き、日々現金も減っていつている状態。

様々手順や手続きがあるのは承知している中、
令和8年4月からの新たな病床数と診療科スタートといわず、
前倒しして進めて頂くよう要望しました。

みなとメデイカル縮小検討

経営改善へ長崎市方針

長崎市は25日、長崎みなとメデイカルセンター（新地町）の規模縮小について検討を進め、2025年度中に結論を出す方針を明らかにした。病床や職員数を含めてスリム化し、経営状況の改善を図る狙い。

定例市議会一般質問で、平野剛議員（新政ミライ）に島村昭太市民健康部長が答えた。

市地域医療室によると、25年度中に同センターを運営する地方独立行政法人長崎市立病院機構の第4期中期計画を変更し、26年度に構造改革に着手する。

同センターは16年に全面開院。高度・急性期医療を柱に市の中核病院の役割を担い、当初の病床は513だった。だが病床稼働率の低迷などで財務状況が悪化。病床数は徐々に減らし、今年2月時点で420人。職員数は昨年4月時点で約1100人。

市立病院機構は23年度に約17億円の損失を計上。業務効率化などで改善を図ったが、本年度の収支見込みは約12億円の損失となっている。

一般質問で島村部長は、厳しい財務状況や近年の高度・急性期医療の需要減少を踏まえ「現在の枠組みでは限界があり、構造改革を進める必要がある」と強調。

「まずは病床稼働率を向上させることで収益を上げた。病床数削減や適正な職員の配置数見直しで、人件費は一定抑制できると考えている」と答弁した。

（手島聡志）

2025.2.26 長崎新聞記事掲載

6 保育士のサポート事業について

《保育士さんへのアンケート調査》

寝具の準備や片付けなど、子供とは接しない業務にも時間が割かれ、

「休憩時間の確保が難しい。」

「本来の保育士の業務に時間が割けない。」 と言った意見が多くあるようです。



保育士本来の子どもと向き合い、**出来るだけ子どもに接する時間を確保**

する事で、保育の質を高める必要があると思います。

そのような課題に対し、国において二つの補助メニューが存在

①子どもと直接接する業務の補助として、

保育士をサポートする為に雇用する場合の補助金

=『**保育補助者雇上強化事業**』

=国から3/4の補助

②寝具や衛生用具の準備など、子どもとは接しない

周辺業務のサポートをしてくれる方を雇用する場合の補助金

=『**保育体制強化事業**』

=国から1/2の補助

現場のニーズを汲んだ、とても良い補助メニューなのですが、

残念ながら

長崎市においては、一般財源からの支出が出る。

との理由から、

「この二つのメニューから、どちらかを選択してください。」

との募集になっています。



長崎市に要望

「**こどもまんなか社会**」と国全体で旗振っている中、
長崎市においても両方のメニューが使えるよう、更なる拡充をお願いしました。



長崎市の回答

園からの要望、保育士さんのご意見を伺いつつ、
他の補助事業と比較検証しながら、効果的な事業であるか見極める作業を行い、
しっかり検討して参ります。

と前向きなご答弁を頂きました。

7 小中学校教室への加湿器の設置について

長崎市では、
平成30年度～令和元年度にかけ、小中学校の全教室へエアコンが設置されました。

夏の暑さと冬の寒さから解放され、
1年を通して快適な環境で、学校生活が送れるようになったかと思います。

快適になって良かった話なのですが、
『冬に暖房を付けているせいで、湿度がかなり低いのではないか？』

『風邪やインフルエンザの感染に影響はないのでしょうか？』

というお声を聞きました。

そこで、

長崎市へ質問&要望

小中学校教室の湿度は、適切な管理がなされているものなのかお尋ねし、
湿度が低い状況であるなら、加湿器の設置について要望致しました。

長崎市の回答

学校環境衛生基準において、教室内の湿度は「30%以上、80%以下が望ましい」とされており、教室設置の温湿度計を用いて、毎日湿度の測定を行い、湿度が基準を超える場合には、換気の実施や水の入ったバケツを教室に設置するなど、**適切な乾燥対策がなされているもの**と考えています。

よって、現時点では、**加湿器の設置は必要ない**と考えています。

との回答でした。

皆さんの声でこんな仕事もしています！

(市民からの要望事)

2024年 2月
東町市道

通学路なのに、坂道なので車がスピード出て危ないので、歩行車線を引いて欲しいとの地域からの要望。早速対応して頂きました。



2024年 3月
本原町側溝整備

ゴミステーションが設置されている交差点に、溝蓋を付けて欲しいとのご要望に対し、設置して頂きました。



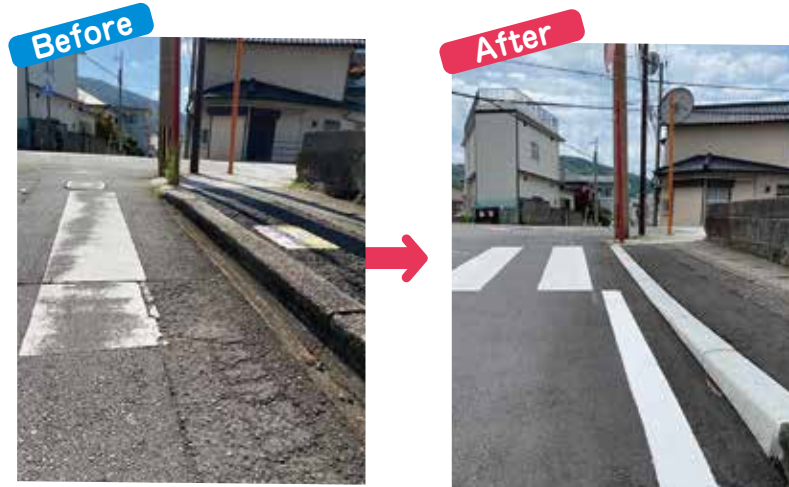
2024年 3月
三原町急傾斜地崩壊対策工事

危険地域に指定されている崖にて、大雨の度に崖から石が転げ落ちてきており、危険な状態であった為、対策工事を数か年に渡って施してもらう事になりました。令和5年度分の工事箇所が完成しました。



2024年 5月
橋口町横断歩道整備

横断歩道を渡りきった所が段差で
つまずくとのこと指摘。
改善して頂きました



2024年 6月
橋口町ガードレール整備

目が不自由な方が夜道に側溝に
落ちて怪我をなされた。
とのこと指摘。ガードレールを付け、
対応致しました。



2024年 6月
橋口町側溝整備

観光客含め、人通りが多い道。
溝蓋を設置して頂きました。



2024年 7月
音無町 街灯設置

車通りが多い中、歩行者が暗くて
危ないとの声。街灯を設置して頂
きました。



2024年 8月
音無町 防犯カメラ設置

児童に対する、いたずら事案や声
掛け事案が立て続けに起こったの
で、該当自治会と近隣私立小学校
とのご協力を頂き、防犯カメラを
設置できました。



2025年 1月
音無町 道路道幅

道路幅が狭くなっている箇所があ
り、車が気付かず通行すると、歩
行者に危険が及ぶ為、注意喚起を
うながす為、歩行者車線とポール
を設置して頂きました。



2025年 3月
山里小学校下剪定

学校下の大木が強風で倒木の懸
念があったのと、落ち葉の掃除も
大変との地元老人会からの声。
伐採するには予算が相当程度掛
かる事から一旦剪定してもらいま
した。



2025年 3月
柳谷町カーブミラー設置

急な坂道からバス通りに出るの
に、バス通りへはみ出さないと車
が見えず、坂が急な為、いつも怖
い思いをしている。との地元住民
からのご相談。
カーブミラーを設置して頂きま
した。

